

2013年1月19日  
*¡Feliz cumpleaños!*  
誕生日おめでとう  
*Parabens! Feliz aniversário!*

峰 万里恵 うた  
齋藤 徹 コントラバス  
高場 将美 ギター

## 第1部

### 1. 腕を貸して、こっちへ来て 《ファド》

*Dá-me o braço, anda daí*

作詞：リニャールシュ・バルボザ *João Linhares Barbosa*

曲：ジョゼー・ブランク *José Blanc*

\* 作詞者は、自分でうたって、自作の歌詞のパンフレットを街頭で売り歩き、ファドの最初のプロ作詞家となった人です。1920年代からファド専門誌の編集・発行、ファド専門の(酒場ではない)会館の設立など、このジャンルを広く一般に認めさせるために大きな貢献をしました。19世紀の末から、郊外の料亭のようなところで、お金持ちの遊び人、遊び女たちがファドの大ファンでしたが、この歌詞はそんな時代の空気がいっぱいです。——伝統的なファドでは、歌詞ができた後に、それにふさわしい既成の曲(メロディ・ライン)を選んでうたわれます。

腕をください、そこから出ていっちゃい、わたしはうたいたいのだから。  
あなたに寄りかかってうたいたい。月光が落ちてくるのを感じたい。あなたに寄りかかってうたいたい、夜が終わるまで。

ごらんなさい、この真っ赤なバラが わたしを より おいしそうに見せるのを。  
わたしたちは 浮かれて遊ぶ人生の3人。あなたの足元では、わたしは見栄っ張

りだと感じる。わたしたちは 浮かれて遊ぶ人生の3人——わたしと あなたと

それからこのバラの花と。

わたしは 3人そろって通ってゆく喜びを感じたい。  
あの女と並んで——あなたが今もっている ファドを歌わない女。あの女と並んで——その人のせいで あなたがわたしを裏切った、あの女。

それからみんなで郊外へ遊びに行く。

わたしはこの浮かれて遊ぶ人生が大好き。扉の外であなたにキスする、夜更けに、静まり返った時間に。扉の外であなたにキスする、そして扉を閉めた中であなたを愛す

### 2. ラス・マニャニータス *Las mañanitas* 《メキシコ民謡》

伝承曲 *Tradicional (México)*

\* マニャニータス(愛らしい朝)とは、本来はセレナータ(夜に、愛する人や尊敬する人の窓辺で捧げる歌)の延長線上にある音楽ジャンルですが、メキシコでは誕生日のお祝い歌だけを指して使われます。朝でも広でも夜でも、時間はいつでもいいようです。

これはマニャニータス(朝の歌)、ダヴィデ王がうたっていたもの。きれいな女の子たちに、それをわたしたちが ここでうたいます。

街角の夜番が わたしにいいことをしてくれればいいな。彼のランプを消してくれればいい、わたしの愛するひとが通るあいだ。

目を覚ませ、わたしのいい人、目を覚ませ。見て、もう夜が明けました。もう小鳥たちがうたっている。そして月はもう隠れた。

なんと美しい朝だろう、わたしがあなたに挨拶しに来た朝。わたしたちはみんな気持ちよく、よろこびをもって あなたをお祝いに来ました。

あなたの生まれた日には、すべての花たちが生まれた。そして洗礼の水盤ではナイチンゲールたちがうたっていた。

もう夜が明けてくる。もう朝の光がわたしたちに当たった。起きなさい。見て。もう夜が明けました。

わたしはちっちゃな太陽になりたい、あなたの窓から入るため。そして朝の挨拶をしたい、ベッドに横になっているあなたに。

ジャスミンやほかの花たちを持って、きょうわたしは あなたに挨拶に来ました。きょうはあなたの誕生日だから、わたしたちはあなたにうたいに来ました。

### 3. あなたと雲たち *Tú y las nubes* 《ランチェーラ》

作詞作曲：ホセー・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

\*ランチェーラ(農場・牧場風の歌という意味だった)は、メキシコの民衆・大衆的な歌謡のジャンルです(リズムはいろいろあります)。この作者は、1950年代から、このジャンルのもつメキシコならではの情熱はそのままに、豊かな人間らしさと、詩的なひらめきに満ちた歌詞で、すばらしい世界を創りあげました。彼の人生と歌は、完全にひとつのものです。(彼の誕生日は1月19日です)

わたしは低く飛んでいく。わたしの愛は地面のあたりにある。そしてあなたは あんなに高くに、あんなに高くに——わたしの つらい思いを見下ろしながら、わたしが 空からとても遠くにいる男であると知りながら。

わたしは低く飛んでいく、あなたがわたしを望んでいないという ただそれだけのことで。そしてわたしはあなたに釘で止められている、あれほど いろいろなたのしみがあるというのに。わたしは あなたの歩みについていくのが好き、あれほど いろいろな女性たちがいるというのに。

わたしは貧しくなるために生まれてはこなかった。わたしは良いものはなんでも好き。そしてあなたは わたしを望まなければならないはず。そうでないと闘いでわたしは死ぬ。でもあなたの そのかわいいくちびるは わたしに言うはず——あなたをのぞむ！と。

希望の木、おまえは野原にひとりで生きている。おまえ、言いなさい、わたしが彼女を忘れていないかどうか。あるいは わたしが彼女に耐えられないかどうか。結局は わたしの両目は涙でいっぱいになるだろう。

あなたと雲たちが わたしをととても頭がおかしくした。あなたと雲たちが わたしを殺している。

わたしは上のほうへは とても少ししか跳べない。  
あなたは下のほうを 見ることを知らない。

### 4. あの通り *Aquela rua* 《ファド》

作詞：リニャールシュ・バルボーザ *João Linhares Barbosa*

作曲：ジャイム・サントシュ *Jaime Santos*

\*作曲者はギターラ(ポルトガル・ギター)の超名手で、歌詞にぴったり合わせて作曲しました。アマーリアさんのために作詞作曲されたファドなのでしょう。

わたしに あの通りの話をしないで。あの通り——わたしにとっては いちばんき

れいな通りだった、いまだに。

そう あなたは黙っていてくれたほうがいい。わたしに 今日の時間のことを話さなんて！ 過去形ではわたしに話さないで。

あの幻影の時代、わたしは 素朴な白百合のように 小さかった。月の光のように 純粋。わたしはいちばんきれいな娘だった、その通りの始まりから終わりまでのあいだで。

学校へ行くための 小さな四角の模様の 青い上っ張り、リボンとレース付き。きょうわたしは ほかの道をたどっている。わたしは あなたの両腕を鳥かごにしてみました。

わたしのもっていた楽しい歌たち。はやりだったそんな歌しか わたしはうたえない——見てごらん 悲しいやめさん。回って歩いてる 泣きながら歩いている。

わたしは あの噴水の妹だった。あの正面にあった噴水。わたしは ベラベラしゃべることを覚えた、噴水といっしょに。でも あとですべては変わった。なぜならある日 あなたが通り過ぎたから。あなたが通り 泉は枯れた。

わたしの小さな土の水つぼ、変なおもしろい形のつぼ。なるようになったんでしょう。こわれてしまった。

あなたはわたしを 自分のものだと呼びながら通った。そのときから もう わたしは踏んでいない、あの通りの石たちを。

### 5. ファド・タマンキーニャス *Fado Tamanquinhas*

作詞：リニャールシュ・バルボーザ *João Linhares Barbosa*

曲：カルロシュ・シモンエシュ・ネヴシュ *Carlos Simões Neves*

\*タマンキーニャスとは木のサンダルのことですが、この曲を作った人(ファドの歌手)の名前だったようです。そんな靴を履いていたのでしょう。

さまざまなたと さまざまのサウダード(失ったものを悲しく思い出す感情)で、このきれいなリスポンは生きている。きちがいじみたことや 良くないこともする。でも根は純粋で善良、彼女のいろんな軽はずみな行為の中にも。

中心街シアード街ではブルジョワ女になる。アパートの中庭では 裁縫女、料亭ではファドを歌う。市場では値切り屋の女。そしてタイジュ河が彼女のいいなづけ。

さまざまなたを 呼び売りの声にする。空と月が好き。聖体行列では信仰をもって歩む。街のマルシャ(祭りのダンス)では頭がおかしくなる。彼女はさまざまの嫉妬と情熱をもつ。

永い命を！ このきれいなリスボンに！ ほかの町々と違って生きて！ マドラゴア地区は青い街。いろんな欠点といろんな長所——すべてをこのリスボンはもっている。

## 6. わたしの胸の窓辺で *À janela do meu peito* 《ファド》

作詞作曲：アルベルト・ジャネシュ *Alberto Janes*

\*1950年代に、これまでの伝統をやぶった、変なファドをつくって登場した作者です。アマリアさんがただひとり、彼の曲の魅力を認めてうたい、大ヒットさせました。この曲はヒットしませんでした。

あそこを 跳ねて遊びながら行く、幻影の獣に手を引かれて、あの女の子が——その子はいつも笑顔のわたしだった。まるで人生が 永遠につづく春でもあるかのよう。そしてこの世の中に 感じる痛みなんかなくないように。

さまざまの大きな笑い声が、その窓に宿りにくる。そして それが聞こえるときわたしは もっとじぶんが かわいそうになる。アイ どんなにいいだろう！ いまもなお彼女のように笑えたら。

わたしの胸の窓は 過去によって開かれた——ファディシュタ(ファドの歌い手)たちとファドですべてができた過去。

わたしは魂を窓にのぞかせる。過去が通り過ぎてゆく。そこにじぶんを見て、魂は泣きつづける。

あそこを ふざけながら行く。そのちっちゃな足どり、長く伸ばした黒い髪、ぴったりのパンタロン……

どれほど わたしたちは変わってしまったことか！ わたしにとってすべてだったあなた。きょう わたしの目には、あなたは「無」とほとんどおなじこと。

あなたの冗談、おふざけと皮肉、それは街のものだった。人の口から口へ伝わっていった。

あなたを見ることで わたしが何を感じていたのかわからない。たぶん狂気か……わたしは あなたゆえ 頭がおかしくなっていたのか。

幻滅たち。わたしの抱いた幻滅が通りを満たす。そこにいるのだ。

人は生きていく、もう そこを行ってしまう時を。

## 7. 街 《ショーロ》

作曲：齋藤 徹 *Tetsu Saitoh*

\*ショーロは、いわゆるクラシックも含めてブラジル音楽の魂を表現する演奏スタイル。

感覚です。いちおう「ショーロのリズム」といえるものが(2拍子)定着していますが、本来はリズムの形式名ではありません。最初のころは、ヨーロッパから来たポルカのリズムを使うことが多かったようですが、ブラジル人は外国のものでも、すべてブラジルならではの表現に変えてしまいますね。

## 第2部

### 1. 悲しみたちは借りを返さない 《ワルツ》

#### *Tristezas não pagam dívidas*

作曲：アルフレード・ヴィアナ(父) *Alfredo da Rocha Vianna (Pai)*

\*ブラジル音楽のすべてをもち、創りだした巨匠(フルート、後にサクソ、作曲、編曲指揮)ピシギウーニャのお父さんのつくった、なんともセンチメンタルなワルツです。19世紀末~20世紀はじめの曲でしょうか？ 変なタイトルですが、悲しんでいても、なにも良いことはないという意味の、ポルトガルとブラジルのことわざのような言いかたらしいです。このあとに「泣いたって得るものはないぞ！ *Não adianta chorar!*」とつづきます。

### 2. このおかしい人生 *Estranha forma de vida* 《ファド》

作詞：アマリア・ロドリグシュ *Amália Rodrigues*

曲：アルフレード・マルスナイロ *Alfredo Marceneiro "Fado bailado"*

\*アマリアさんが若いころ作った歌詞。メロディは、彼女が敬愛する大先輩の男性ファド歌手がつくって、ほかの歌詞でうたっていたものを借用しました。

神様の意思だった、わたしが この心乱れる熱望のなかで生きているのは。

すべての「アイ！」がわたしのものであるのは、それがわたしのサウダードのすべてなのは 神様の意思だった。

なんと不思議な生きかたを このわたしのころは もっているのか。なくした人生を生きている。だれか 彼に魔法の杖をさずけてくれないものか——なんと不思議な生きかた。

独立したころ、わたしがあやつっているのではない ころ。おまえは人々の中に迷って生きている、勇敢に血を流しながら——独立したころ。

わたしは おまえといっしょに行かない。止まれ！ 鼓動するのをやめなさい。どこへ向かって行くのか知らないのに、かたくなに走りつづけるのか。

わたしは おまえといっしょに行かない。

### 3. デハメ・ジョラール(わたしを泣かせて)

## 《カンシオン・メヒカーナ》 *Déjame llorar*

作詞作曲：アルフォンソ・エスパルサ・オテロ *Alfonso Esparza Otero*

\* 作者は、いわゆるクラシック音楽の作曲家ですが、ダンス・オーケストラの指揮をしたこともあります。いまも民衆に愛されつづけている数々の歌曲をつくりました。この曲は、『真珠の首飾り』というタイトルでも広く知られています。

わたしは魂の中に感じている、はかり知れないほど大きな 泣きたい望みを。  
あなたが わたしに足りない、そしてわたしは そのことをあなたに言わないと誓ってしまっただ。

わたしは あなたに作りたい、わたしの涙で真珠の首飾りを。わたしを泣くままにして置いて、なぜなら きょうわたしは あなたを失ってしまったから。  
あなたを忘れようとのぞんで、わたしはもっとあなたのことを思い出す。

もし愛することが犯罪なのなら、わたしは犯罪者。どうして わたしは払わずにいられよう、わたしの愛のした悪いことの報いを。

## 4. あなたの思い出とわたし 《ランチェーラ》

### *Tu recuerdo y yo*

作詞作曲：ホセー・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

\* 曲中でリクエストしている『あの去っていった女 *La que se fue*』は、ホセ・アルフレードのこの前のヒット曲です！ その曲は『彼女 *Ella*』という大ヒットの続編でした。

わたしはとある酒場の片隅にいる、わたしが頼んだ ある歌を聞きながら。  
たった今 わたしのテキーラが来たところで、もうわたしの思いは あなたの方角に向かっている。

わたしは知っている、あなたの思い出は わたしの不幸だと。そして わたしはただここにやって来た、思い出すために。

わたしたちに起こることどもは、なんと にがいことだろう！ 人がやってくれたことに報いない女がいるときには。

知らないものは誰だ？ 良くない愛がわたしたちに置いていく この人生でこんなによく知られた裏切りを。酒場へやって来ない者がいるだろうか！ 自分のテキーラが欲しくてたまらなくて、自分の歌が欲しくてたまらなくて。

わたしにはもう 帰り道のためのテキーラが出されている。この今となっては もうわたしは知らない、わたしに信じる心があるのかどうか。

この今となっては ただただ、わたしは彼らに頼む、もう一度弾いてくれと——『あの去っていった女』を。

## 5. みどりの眼 *Ojos verdes* 《カンシオン・エスパニョーラ》

原案：アントーニオ・キンテーロ *Antonio Quintero*

作詞：ラファエル・デ・レオン *Rafael de León*

作曲：マヌエル・キローガ *Manuel Quiroga*

\* スペイン歌謡のほとんどは、フラメンコ調です。この曲の作者たちはセビージャ出身で、このジャンルの最高峰——実は創始者とも言える人たちです。劇作家キンテーロが筋書きを作り、ロルカを敬愛していた詩人レオンが歌詞を書き、オーケストラ編曲指揮者でもあったマエストロ・キローガが、その詩にぴったり合わせて作曲しました。

歓楽の家の戸口の壁に寄りかかって、わたしは 5月の夜が燃えるのを見ていた。  
男たちは通り過ぎてゆき わたしは ほほえんでいた。そのとき わたしの戸口にあなたは馬を止めた。  
「セラーナ(ジブシー女性)、火をくれないか」 わたしは言った 「来て、わたしのくちびるからとりなさい、わたしが あなたに火を上げよう」

あなたは馬から降り、わたしは あなたに火をあげた。そして、ふたつのみどりの5月の明星だった、あなたの両目は、わたしにとって。

あなたの みどりの両目、バジリコのようにみどり。みどりの小麦のように、みどりのレモンのように。

みどりの両目。ナイフの輝きをもってみどり。わたしの心臓に刺し込まれた。

わたしには もう太陽たちはない、明星も 月も。みどりの両目しかない。それがわたしの命。

あなたの みどりの両目。ジリコのようにみどり。みどりの小麦のように、みどりのレモンのように。

わたしたちは部屋から 朝が目覚めるのを見た。そして教会の物見の塔が夜明けの鐘を打つのを。夜が明けていくとき あなたはわたしの腕から出て行った、わたしの口の中に ミントとシナモンの とある味を残して。

「セラーナ、ドレスのために おれはあなたにプレゼントしたい」  
「わたしは前に もう言いました——あなたは つとめを果たしたと。なにも わたしにくれなくていい」

あなたは馬に乗り、わたしから去った。そして またべつの、あれより美しい5月の

夜を、わたしはふたたび見ることはなかった。

## 6. わたしの花売り男 *Mi florero* 《タンギージョ》

作詞作曲：ルイス・ゴメス *Luis Gómez Gutiérrez*

\*うたって踊るフラメンコのディーバ、ローラ・フローレスのレパードリーでした。おかしなことに、日本では、ポルトガルのアマリアさんが来日ステージでうたって紹介しました。

娘さん ここに花売りが来てますよ、いろんな香りの花束をもって。そしてほんのわずかなお金で いちばん美しい花をあげます。

ブロンド女たちは白いバラ、花びらは金色。ブルネットはカーネーション、両目の代わりに黒玉。栗毛女たち、かわいい栗たち、熱くなって、よく焼けて、マーガレットの花のよう、なんにもしないのに花びらを散らす。

マホガニー女はため息ばかり、情熱の女たち。彼女たちは あなたにお世辞を言って、心をボロボロにしてしまう。ブロンド、ブルネット、栗毛——あなたはみんな好き。

彼女たちはスペインのニンニクに入りこんでる(どこにでもいる)。あなたの庭の花たち。あなたに不思議なことを起こす——アイキロン アイキロン アイキリン。

花売りが行ってしまいますよ。玄関で呼びなさい、庭で呼びなさい。  
アイキロン アイキリン。

## 7. 東の土地のむすめのコリード 《コリード》

*Corrido de la muchacha oriental*

作詞作曲：高場 将美/峰 万里恵 *Masami Takaba / Marie Mine*

\*コリードは、メキシコの物語り歌のジャンルです。

わたしは ある忘れられた物語をお話ししましょう——東の土地の ひとりの少女の物語。わかりませんね、勝手に発明されたところもあるかも……でも奥底ではまったくの真実です。

人々が「昇る太陽の(日出る)」と呼ぶある国に、ひとりの女の子が生まれました、ひとりで、暗闇の中で。ある金髪の牡猫が彼女が泣いているのを見つけました。黒い牡猫はファルセットで言いました——ミアウ！

猫たちは彼女に言いました——歌え、泣かないで。だって泣いていたら太陽は見つからないでしょう。わたしたち3人いっしょに世界を見に行きましょう、やさしさ

と光と温かさを求めて。

3、1-2-3、しっぽのリズムに乗って、進んで行きながらひとりの歌い手にめぐり会いました。彼がうたうとき 鳩たちが出てきました、真っ白で、彼の声から、飛びまわりながら。

そして鳩たちの飛ぶのを追いかけて行く3人に、空が レポーソ(メキシコ女性のショール)のように おおいかぶさりました。だって、それは青よりも青い空でした、ドン・ホセ・アルフレード、お妃も玉座もない玉様がうたった空。

ついに少女は喜びで泣きました、永遠の歌の空の下で。

ここでコリードは終わり、いま始めます、彼女の新しい歌を、東の少女が。

ここでコリードは終わり、わたしはお別れします。わたしの仲間たちがご挨拶をおくりませう——ミアウ！

選曲・構成：峰 万里恵 プログラム作成：高場 将美

3月16日(土) 19:00より

このスペイン・バル *Olé* にて

メキシコに愛をこめて  
*A México con amor*

峰 万里恵 うた 三村 秀次郎 ギター

高場 将美 ギター